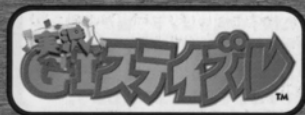
厩舎・馬房篇

Chapter 2 Stable&Training

Grade One Stable

馬房

競走馬を管理する場所 ── それが馬房。目標のレースに出走させるため、優秀なスタッフたちと、日夜努力を怠らないように…。

G1制覇はここから始まる！

自厩舎で管理する馬は、調教時以外は、トレーニングセンターの馬房の中にいる。ここでは、馬の調子を管理し、目標のレースに向かって調教、追い切りを消化。ベストの状態でレースができるように、調整する基地のようなものだ。日常の世話は担当の厩務員がやってくれるが、追い切り、レースローテーションの決定など、調教師としてやらなければならないことが、この馬房にはたくさんある。

馬房データ画面の見方

❶管理馬の現在の状態
馬名／馬齢／クラス
馬体重（前走比）
トレーニングに対する
コメント
馬の調子の向き
現在のトレーニングパターン
追い切り回数
❷この馬の父親／母親／距離適性
❸馬主名
❹コース別戦績表（芝：芝レースの成績／ダ：ダートレースの成績／全：全レース通算成績／脚：脚質　逃げ・先行・差し・追い込み　の順）
❺毛色／通算成績　何戦何勝
❻戦績表

馬体重

馬体重は現在の体重と前走時の体重差を示している。調教師として覚えておかなければならないのは、その馬のベスト体重。ベスト体重を把握しておかないと、ハードなトレーニングで馬体減りしたとき、馬体回復に手間取ることや、体重が増えすぎたときに、どこまで落とせばいいのかわからず、ハードトレーニングを課してしまったりするからだ。

管理馬のベスト体重は、放牧に出したときに戻ってきた体重でだいたいわかるようになっている(2ヵ月牧場に放牧に出したときは、ベスト体重の+20kgくらい、1ヵ月育成牧場に放牧に出したときは、ベスト体重の+10kgくらいで帰厩する)。

馬体の細化が見られますとか、馬体が太いと言われたときは気をつけるようにしよう。

クラス

クラスは、競走馬の成績に応じて新馬、未勝利、未出走、500万下、900万下、1600万下、オープンと、細かく分けられている。自分の管理馬のクラスを把握していないと、レース登録の時に困ることもあるので、しっかり把握しておこう。

トレーニングに対するコメント

担当の厩務員から、より詳しいコメントを聞けるが、ここを見れば、とりあえずの現状がわかるようになっている。また調子の向きは、下り坂からピークまで、矢印が上から下へと向きを変える。矢印が上昇してきたら、レースへ登録することを考えるようにしよう。

現在のトレーニングパターン／追い切り

現在この馬が1週間に行っている調教パターン（トレーニングパターンについて詳しくは36ページ～を参照)。

追い切りは、1週間に3回行うことができる。これについて詳しくは40ページ～を参照してほしい。

距離適性／コース別戦績

この馬がどれくらいの距離に適性があるのかを示した棒グラフ。棒グラフが左よりならば短距離に強く、右寄りならば長距離に強い。棒グラフの真ん中が、だいたい2200～2300m。これを目安に、個々の馬の適性距離を把握しておきたい。棒グラフ上白い距離(まったく適性がない)のレースで勝つのは、かなり難しい。

コース別戦績には、芝のレースでの戦績、ダートのレースでの戦績、芝、ダートの合計戦績が表示されている。数字は左から1着、2着、3着、着外（4着以下）の回数を表示している。

戦績が芝とダートで明らかに差のあるような馬は、ここの数字を確認して、どちらの路線に進ませるかを決定しよう。

脚質

脚質とは、この馬が過去のレースでどのような位置取りをしていたかを示している。

左から逃げ、先行、差し、追い込みの順番。あくまでも、これまでのレースでの脚質であって、これと同じ戦法をすれば、常にレースで勝てるというわけではない。展開に左右されず、いつも同じ脚質で勝ち負けできるほど能力が高ければいいが、展開によって逃げ、先行、差し、追い込みを使い分けられるような、自在に脚質を変えられる馬を育てるのが理想かも知れない。

獲得本賞金／獲得総賞金

本賞金は、1着になったときのみに加算される（重賞は2着までが加算の対象）。この賞金が、クラス分けの基準になっている。3200万円以上あれば、生涯オープンクラスである。総賞金は、その馬が稼いだ賞金合計。

戦績表

戦績表は、馬房データや画面が出たときに十字キーでスクロールさせれば、デビュー戦から現在まで出走したレース全戦の戦績を確認することができる。

戦績表には、このレースの開催された月・週、競馬場と第何回の何日目か、レース名、距離、出走頭数、枠順、人気、結果着順、馬場状態、騎手、戦法、矯正具、斤量、当日の馬体重などが表示されている。

詳しいデータの配置は、取り扱い説明書を参照してほしい。

画面上の馬の表情の違い

画面上で、馬名の横にある馬の表情は、その時の馬の調子が示されている。ここの表情を見て、現在の馬の調子がいいのか悪いのか、しっかり把握する必要がある。

調子が最高のときの表情

レース本番に向けて、体調がピークに達しようとしている。この状態になったら、確実にレースに出走させよう。ただし、馬の調子は良くても、ベスト体重を割っていることもあるので、馬体にも気を配ろう。

まずまずの状態のとき

無表情だが、この状態が普通の状態。ピークに向かって徐々に調子を上げているか、ピークを過ぎてやや調子が下向きになっているかのどちらか。

やや不調時

目が点になっているときはイマイチのとき。これから上昇するか、もしくは下り坂に向かっているときの状態がこの表情だ。

調子落ちしている状態

ぐったり疲れているという表情は、明らかに調子落ち。だが最悪の状態から徐々に持ち直しつつあるときも、この表情になる。調子落ちのときは、思いきって放牧に出してしまったほうが良いかもしれない。

調子最悪のときの表情

苦しそうに目をぐるぐるさせている。これは本当に調子どん底の状態。この状態で調教や追い切りをしても、どうにもならないので、放牧に出してしまうか、引き運動のみでしばらく様子を見るしかないだろう。

馬の調子は、体調面、トレーニングでの動き、表情と、いろいろなところでわかるようになっているので、馬房画面ではあらゆるところに目を光らせていなければならない。

馬房内部

馬房画面で見られなかった馬房内部の実情が見られる。厩務員、調教助手と馬の相性は、果たして良いのか悪いのか。悪ければ編成の見直しも…

厩務員、調教助手の表情にも注目

馬房画面でCボタンユニットの下（▽）を押すと、馬房内部画面に行くことができる。

馬房内部では、外からは見えなかった厩務員、調教助手と担当している馬の関係が浮き彫りにされる。相性だけではなく、厩務員がきちんと仕事をしているかどうかもわかってしまうのだ。

Cボタンユニット（▽）を押すと…

馬房内部のコマンド

馬房内部では様子と並び替えの2つのコマンドを実行できる。

'様子'は馬の様子を伝えるコメントが表示され、そのコメントによって、馬房内部の様子を把握できるというわけだ。

'並び替え'では、馬房にいる管理馬の馬房内での並びを10パターンで並び替えることができる。馬房の並び次第では、馬同士が悪影響を与えあう可能性があるので、気をつけなければならない。

馬房内部画面の見方

❶管理馬の現在の状態
馬名／馬齢／クラス
馬体重（前走比）
トレーニングに対するコメント
馬の調子の向き
現在のトレーニングパターン
追い切り回数
❷担当厩務員／❸担当調教助手
❹2人が担当している競走馬／馬房

様子

様子コマンドで馬の様子を見ることができるが、その際に表示されるコメントは以下の通り。優先順位の数字が若いほうから順にコメントされる。故障・病気のコメントが出たときは即対処するようにしよう。

優先順位		条件	コメント
1		引退式が決まっている時	おつかれさま…
2	故障、病気中	フレグモーネ	！傷口が腫れている…
		腹痛	！腹痛で苦しそうだ…
		じんましん	！発疹でつらそうだ…
		発熱	！熱でつらそうだ…
		ソエ	！ソエを痛がっている…
		ハ行	！歩様がおかしい…
3	気性	気性がすごく荒い	！カリカリしている…
		気性が荒い	！落ちつきがない…
		気性が臆病	！周りが気になっている…
		気性がすごく臆病	！ビクビクしている…
	厩務員との相性	相性がとても悪い	！寝わらにクモが…
		相性が少し悪い	！馬房が汚れている…
		相性が少し良い	手入れが行き届いている…
		相性がとても良い	馬房は清潔に保たれている…
	調教助手との相性	相性がとても悪い	！トレーニングを嫌っている…
		相性が少し悪い	！トレーニングに集中しない…
		相性が少し良い	トレーニングが好きなようだ…
		相性がとても良い	トレーニングを楽しんでいる…
4	脚の強さ	脚が弱くかつ調子が悪い	脚もとがモヤモヤしている…
		脚が強くかつ調子が良い	頑丈そうな馬体だ…
5	季節のネタ	7～8月に調子が悪い	夏バテかな…
		12～2月に調子が悪い	冬毛がボサボサだ…
6	問題ない時（ランダムでどれか）		特に気になるところはない…
			特に問題はない…
			つぶらな瞳をしている…
			笑っているみたいだ…
			（11～2月で）ヘッ…ヘックション！
			（3歳でデビュー前）デビューが待ち遠しい…
			（デビュー後3歳で）まだまだ子供だな…
			（4歳で）もう大人の仲間入りだな…
			（5～6歳で）たくましくなったな…
			（7～10歳で）もう○○歳か…

馬と厩務員、調教助手の相性

馬房内部にいる馬にカーソルを合わせると、その馬の担当厩務員と調教助手の顔が現われる。その際、2人の表情が、馬との相性を表している。相性が良い場合は、顔が笑顔に、逆に悪い場合は困った顔になる。相性が顔に出るのは、その馬の担当になってから4週間以上してからなので、新たに担当を編成したときは、気をつけて見るようにしよう。

また、表情が出にくいスタッフもいるので、コメントも合わせて注意しよう。

上2枚の画像の表情は2人とも明らかに違うことがわかる

2人とも笑っていれば問題はない。

スタッフ編成画面でも表情は見られる

並び替えは慎重に

馬房内部の並び替えコマンドで、馬房の中の並び替えをすることができる。並び替えの種類は以下の通り。

●カスタム
入れ替えたい馬同士を自由に入れ替えることができる。入れ替えたい馬を選択してAボタンを押し、さらに入れ替えたい馬房にカーソルを持っていってAボタンを押すと、2頭の馬の位置を替えることができる。

●クラス
オープン→1600万下、900万下…と、クラスが上のものから下のものまで順に左から右へと並ぶ。

●獲得賞金
馬房左から順に、獲得賞金の高い馬から、低い馬へと順番に並ぶ。

●馬齢
馬の年齢が高い順に、左から順番に並んでいく。

●性別
左から順番に、牡馬→牝馬→セン馬の順で並び替える。

●マーク
馬名の頭についているマークの順番に並び替える。
ちなみにマークの順番は、何もついてないもの、市、父、外の順番。

●厩務員
入厩年数の古い厩務員順に左から右へと並び替えられる。

●調教助手
入厩年数の古い調教助手順に左から右へと並び替えられる。

●馬主
馬主ごとに自動で並ぶ。
ちなみに馬主順というのは、
市川氏
仁川女史
三井氏
志村氏
後藤氏
六甲氏
奈々村氏
安永氏
栗山氏
遠山氏
マイケルクラブ（代表：赤井氏）
タウンホースC（代表：青田氏）
東西牧場
エックス牧場
マキシムファームの順。

●50音順
馬名の50音順に並べ替える。

馬房の並び替えのときに気をつけたいのは、気性の荒い馬は、他の馬に悪影響を与えるということ。馬房に余裕があるときは、気性の悪い馬を隔離するようにしておいたほうがいい。また、馬房が一杯の場合は、気性の荒い馬を端の馬房に入れる。両側とも空き馬房にするのは難しいので、片側だけでも、他馬と接しないような状況を作ってあげたほうが良いだろう。さらに、隣には若い馬ではなく古馬を入れる。古馬の方が、隣の馬の影響を受けにくいのだ。

トレーニングパターン

追い切り以外に、日常行う調教のことをトレーニングパターンと呼ぶ。この日々のトレーニングによって、競走馬はさらに能力を高めていくのだ。

トレーニングパターンとは

日々の調教、それがトレーニングパターンだ。新馬入厩時から指示を出すように、競走馬の能力をアップさせる最も基本的な方法である。ダートでスタミナをつければ距離適性は伸び、ウッドや坂路でスピードをつければ短距離にも対応できるようになる。効果は距離適性グラフで確認できるので、目的を持ってパターンを組み立てよう。担当の調教助手に指示を出しておけば、黙っていてもトレーニングを続けてくれる。だが、馬の調子は日々変動しているので、それに合わせて、トレーニングパターンの指示も変えていかなければならないのだ。

また、厩務員と相性の良い馬は、疲労と馬体重が回復しやすいため、強いトレーニングをしても体調を崩しにくい。調教助手と相性の良い馬は、同じトレーニングパターンでも、能力の上昇度が高くなる。相性の良い組み合わせでトレーニングを行うというのが重要なポイントである。

トレーニングパターン効果一覧

トレーニングパターン	スピード効果	スタミナ効果	瞬発力効果	疲労度	馬体重増減	トレーニング解説
ダート	D	D	D	1	−2kg	砂を敷き詰めたコースで行う調教 主にスタミナ強化を狙ったトレーニング
ウッド	D	D	D	1	−2kg	木片を敷き詰めたコースで行う調教 主にスピード強化を狙ったトレーニング
坂路	C	D	C	2	−2kg	木片を敷き詰めた坂道で行う調教 主にスピード&瞬発力強化を狙ったトレーニング
ダート・ウッド	C	A	C	3	−6kg	ダートとウッドの2つを併用して行う調教 主にスタミナ強化を狙ったトレーニング
ダート・坂路	B	A	A	4	−6kg	ダートと坂路の2つを併用して行う調教 すべての能力を平均的に強化するためのトレーニング
ウッド・坂路	A	B	A	4	−6kg	ウッドと坂路の2つを併用して行う調教 主にスタミナ、瞬発力強化を狙ったトレーニング
ウッド・プール	D	C	C	2	−6kg	ウッドとプールの2つを併用して行う調教 脚部不安の馬のスタミナ強化を狙ったトレーニング
坂路・プール	C	B	B	3	−6kg	坂路とプールの2つを併用して行う調教 脚部不安の馬の瞬発力強化を狙ったトレーニング
インターバル	E	D	E	−1	−4kg	馬の調子を見ながらじっくりと乗り込む調整調教 全体的な強化をしながらも馬体重の調整に努める
角馬場	E	E	E	−2	±0kg	じっくり乗り込みながら馬体重の調整 馬の調子を整えることに重点を置いた調整調教
森林馬道	F	F	F	−4	+2kg	人工森林を歩かせて馬をリフレッシュさせる
引き運動のみ	F	F	F	−3	+4kg	厩舎の周りで少し運動させて馬をリフレッシュさせる

※各調教による効果はA~Fの6段階で表示（最も効果があるのはA、逆にないのはF）
※各調教による疲労度は−4~4で表示（数字が大きくなるにつれて、疲労度が高くなる）
※栗東の坂路は美浦の1.5倍の長さがあるため、トレーニングによる効果が1.5倍に。だが疲労度も1.5倍になる
※森林馬道は美浦トレセンのみ

馬房での馬の調子メッセージ

悪い	まだまだ本来のできにはほど遠い状態です もうしばらくかかりますね
	少しずつですが元気が出てきました
	だいぶん調子がもどってきました 飼い葉も食べるようになってきてます
	毛ヅヤが良くなりました　調子も良さそうですよ
	調子があがってきました 馬体はほぼベストですね　順調にきてますよ
	気合い乗りが抜群です 馬体も文句ないし　いつでもレースに行けますよ
良い	今がピークですね　すべてに文句のない状態です
	好調を維持してます 馬体にも張りがあっていつでもレースに使えそうです
	調子はソコソコです 毛ヅヤもまあまあですね
	平凡な状態です でも調子が落ちてきてるような気がします
	少し元気がないのが気になりますね
	体調があまり良くないようです カイ食いも落ちてます
	まったく元気がないです 体調がかなり下降していますね
最悪	状態が悪すぎます 回復には時間がかかりそうですね

馬の調子にあったトレーニングパターンは…

●まだまだ本来の出来には〜

これは馬の調子が底にあり、これまで蓄積された疲労がまだ残っている状態。森林馬道、もしくは引き運動で馬をリフレッシュさせ、疲労回復に努めるのが賢明だ。

●少しずつですが元気が〜

馬の調子が上昇の兆しを見せているときのもの。不調期間は抜けたが、ここで激しいトレーニングを行うと、調子を落とす可能性大だ。そこで、次のメッセージに変わるまで角馬場、インターバルで調整調教を行うといい。

●だいぶん調子がもどって〜

馬の調子が確実に上向いてきたときのメッセージ。ここから激しいトレーニングパターンへと切り替えるといい。極端に体重が増えていなければ、ダート、ウッド、坂路を行うといいだろう。

●毛ヅヤが良くなりました～

馬の調子がどんどんよくなってきているときのメッセージ。急激に体重が落ちないように心がけながら、ダート、ウッド、坂路の調教を繰り返すといいだろう。調教で疲れをためたくない場合は、プールを交えるのをお薦めする。

●調子があがってきました～

馬の調子はピーク間近。この段階では、激しいトレーニングをするよりは、レースに向かって軽めの調整に切り替えるといい。また、目標がG1の場合は、この段階でステップレースを使うのもいいだろう。

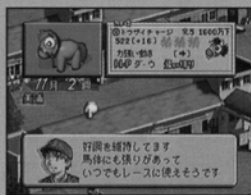
●気合い乗りが抜群です～

この段階までくると、ほぼピークに達したと言えるだろう。当然レースに出走しても問題ない。目標とするレースの前のステップレースに使う場合は、本番前の一叩きで軽めに追い切ってからレースに向かおう。目標のレースまで間隔がある場合は、インターバルや角馬場でトレーニングを行い、好調期間の維持をはかるといいだろう。

●今がピークですね～

このコメントが出た時点で、馬の調子はピークを迎えている。この段階でレースに出走させないと、あとは少しずつ調子が落ちていくことになるので、必ず登録するようにしよう。レース出走前は追い切りを行って、しっかりと仕上げた状態でレースに臨むように。トレーニングはダート、ウッド、坂路を行えば問題ないが、調子の維持をしたいときは、インターバル、もしくは角馬場を行うといいだろう。

●好調を維持してます～

このコメントは、ピークを越してしまったときに出るものだ。もしこの時期にレースに出走するのならば、強い追い切りは避けたほうがいい。強い追い切りをすることで、調子を一気に落としてしまうことが考えられるからだ。また、好調を維持するために、トレーニングはインターバルか角馬場をお薦めする。

●調子はソコソコです

すでにピークを越えてしまい、調子が落ち始めたときに出るコメント。だが、あくまでも落ち始めなので、まだ余力があれば、レースに出走しても勝つことができる状態だ。とにかく調子落ちだけが気になるので、トレーニングは、インターバル、角馬場を行う。決して調子が上向くわけではないが、現状維持だけはできるはずだ。またレースに出走するときは、追い切りは軽めにして、できるだけ調子を維持して臨みたい。

●平凡な状態です～

平凡な状態といっても、調子は完全に下降線をたどっているので、この段階ではレース出走は見送るべきだろう。トレーニングはインターバルと角馬場を行う。この2つのトレーニングは、好調を持続させるのと同時に、不調期間を短くする効果もある。少しでも早く不調期間を脱して、次のレースに向かいたい。

●少し元気がないのが～

この段階では、調子がどんどん落ちていることを示している。故障の確率も高くなるのでレースには、当然出さないほうがいい。トレーニングもインターバル、角馬場で調整調教を行い、これまでに蓄積された疲労をできるだけ早く回復させるよう努めるべきだ。

体重の変動が激しいときのトレーニングパターンは…

●体調があまり良くないようです

さらに調子が落ちている状態。カイ食いも悪く、馬体維持が困難。トレーニングどころではないので、一刻も早く不調から脱することができるよう、インターバルと角馬場で調整調教を行おう。放牧に出すことも検討し始める段階だ。

●まったく元気がないです〜

調子がどんどん落ちていることを示したメッセージ。不調期間を早期脱出するためにインターバル、角馬場で調整調教を行うか、思いきって放牧に出すのが懸命だろう。

●状態が悪すぎます〜

このメッセージが出たときには調子が底についた状態であることを意味する。調子落ちだけではなく、かなり疲労が残っている状態でもあるので、森林馬道（美浦のみ）か引き運動で、馬体を少しでもリフレッシュさせて、疲労回復に努めたほうがいい。また目標レースがかなり先にあるのなら2ヶ月くらい牧場に放牧に出すことも考えてみよう。

●馬体が太すぎますね、まずは〜

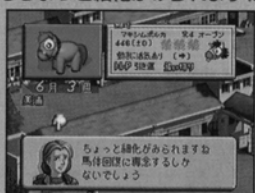
馬体重がベスト時よりも30kg以上重いときに出るメッセージ。とにかくダート・ウッド、ダート・坂路、ウッド・坂路などハードなトレーニングで、馬体重を減らすことに専念しよう。

●まだ重いですねもっと〜

このメッセージはベスト体重より20kg以上重たいときに出るメッセージ。調子が上向きのときはダート・ウッド、ダート・坂路、ウッド・坂路などでハードに調教を。調子落ちのときはプールやインターバルで、疲労をためないように気をつけながら、調整を進めるといい。

●少し重目です　もうひと絞り〜

馬体重がベストより10kg以上重たいときに出るメッセージ。調子が良ければダート・ウッド、ダート・坂路、ウッド・坂路のハードトレーニングで、馬体重を減らすことに努めよう。

●ちょっと細化がみられますね

このメッセージは、馬体重がベスト体重より10kg以上軽いときに出る。馬体を回復させないと、いくら調子が上向きでも、レースで本領発揮できるかどうかは難しい。この場合は回復するまで角馬場、森林馬道、引き運動で調整しよう。

追い切り

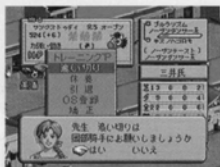
調教と違い、レースに向けて行う実践的なトレーニング、それが追い切り。馬のコンディションを最高の状態に持っていき、レースでは快勝だ!

レースを目前に控えていることを馬に教え、さらに、馬に気合いをつける意味でも行われる調教、それが追い切り。普段のスタミナ、スピード、ダッシュ力を養うために行われるトレーニングとは違い、レースに向かって馬の調子を整える最後の仕上げといえる

ちなみに、レース前に追い切りをせずに出走すると、直線の脚が甘くなったり、勝負どころでの決め脚が使えなかったり、仕掛けどころで他馬においていかれたりとマイナス面ばかり表われるので、出走登録した場合は、馬なりでも構わないので必ず追い切るようにしたい。

また、登録したレースがオープンクラスで、レースに騎乗依頼した騎手がそのレースで3回目以上の連続騎乗だった場合、その騎手に追い切りを任せることができる。騎手は、騎乗回数を重ねるほど、その馬を手の内に入れていくが、追い切りでの騎乗も、1回にカウントされるのだ。ただし、ここで注意しなければならないのは、追い切りを騎手に依頼すると、普段追い切りを担当している調教助手が、仕事をとられたことで不満を抱き、調教師への信頼度が下がってしまうのだ。

追い切りコースの種類

ダート	一般的な追い切りコースでスタミナ中心に能力が少し上昇する。 脚部への負担は軽い。
芝	芝に慣れさせるためと、早いスピードに慣れさせるために使用。 スピード中心に能力が上昇。脚部への負担は高めなので多用は禁物。
ウッド	ウッドチップを敷き詰めたコースで、スピード中心に能力が少し上昇。 クッション性が高く脚部への負担も軽い。遠征先では函館のみ選択できる。
坂路	ウッドチップが敷き詰められている勾配のあるコース。 全体の能力が上昇。脚部への負担はやや高いので注意が必要。 並走3頭を選択したときと、遠征先では選択できない。

単走追いと併走追いの違い

追い切りをする場合は、まず単走か併走を選択。単走は1頭単独で行うため、馬の疲労度は比較的抑えられる。無理に競り合うこともしないので、気性が良くなるという効果がある。

逆に併走の場合は他の馬と併せることで、実戦のような感覚で追われるため、馬に勝負根性がつく。さらに併走の場合でも2頭併せと3頭併せがあり、3頭併せの方がより勝負根性がつくが、その分故障する確立は高くなる。

馬の体調、ローテーションなどを考えて、単走、併走を上手く使い分けるといいだろう。

併走の位置取りによる効果の違いは…

併走で追い切る場合は、先行する場合と、同時に追う場合、そして追走の3パターンがある。

先行は、追い切りをする馬が先行して、その後を他の馬に追走させるパターン。これは、相手に抜かれまいとすることから、スピード能力を高める効果がある。また、先行、逃げ馬にとっては、レースで逃げ切るためのシミュレートにもなる。

同時では、相手の馬と馬体を合わせながら競り合うことで、折り合いをつけるという効果と、遅れずについていくことで、スタミナアップにつながる。

追走は、相手に先行させてそれを追いかけていくという調教だが、ごく一般にみられる追い切りパターン。ダッシュ力が付き、レースでも終盤の差し脚に鋭さが増す。

それぞれに効果があるので、自分の管理馬の脚質、能力に合わせた追い切りをかけるといいだろう。

馬なり、強め、一杯、先着

これは追い切りを担当する調教助手がどれくらいの程度で追うかという度合い。馬なりはそれ程気合いをつけずに、軽く流す追い切り。無理に追わず、調子落ちを防ぐという意味合いも持つ。

強め、一杯、先着と追う度合いは次第に強まっていく。追う度合いが強まるにつれて、馬体の減り方が大きいので、多少太め残りの場合は目一杯追ってもいいが、通常であれば強めくらいでも十分に仕上がるはずである。単走、併せでの馬体重の増減は、下記を参照。

調教パターンと体重の増減

単走・併走と追う度合いによってどれだけ体重が増減するか。馬の状態を考えて、追い切るようにしよう。

単走・馬なり ………0kg
単走・強め ………−2kg
単走・一杯 ………−4kg
併走・馬なり ……−2kg
併走・強め ………−4kg
併走・一杯 ………−6kg
併走・先着 ………−8kg

ちなみに、併せて追い切る場合、2頭で併せても、3頭で併せても馬体重の増減に差はない。

追い切り後の調教助手のコメント

絶好調期	文句なしの伸び脚でした　最高の仕上がりですよ
好調下降期	いい動きをキープしてます　調子もいい感じでした
	動きはいいようですが　レースではどうでしょうね
平常下降期	それなりに動いてはいますが　調子は下がってきてます
	スムーズさを欠いてました　勝ち負けは辛いでしょうね
不調下降期	最後はもうバタバタでした　レースでも期待はできませんね
	かなり重い動きをしてます　調子も悪いようです
絶不調期	ぜんぜん手応えなしですね　完調までには時間がかかりそうですね
不調上昇期	動きがまだ重くて…　もうしばらくかかりますね
	直線の伸びがひと息ですね　まだ　レースに使うのは無理でしょう
平常上昇期	まあまあの動きでした　そこそこはやれそうですね
	スムーズな動きでした　調子が上がってきましたね
好調上昇期	いい動きでしたね　順調にきていると思いますよ
	スピード感抜群でしたよ　レースでも期待できると思います

追い切り後の厩務員のコメント

調教助手は、直接追い切りを担当して馬の状態をコメントしてくるが、厩務員は、馬房での馬の調子メッセージとほぼ同じことを言う(37ページ、トレーニングパターンを参照)。ただし、ベスト体重から計算して馬体が減っていたり、太め残りだったりすると、馬体に関するコメントを発する。調子のコメントよりも、体重に関するコメントを優先するので、馬体重に関するコメントを述べたときには、馬の調子に関するコメントは聞くことができない。

Grade One Stable

出走登録と厩務員コメント

追い切りを経て、いよいよレースに出走するわけだが、いつも世話している厩務員、調教助手は馬の実力をよく知っている。彼らのコメントを聞こう。

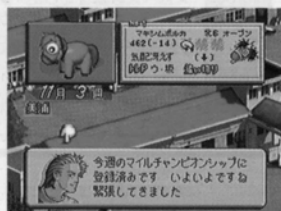
トレーニング、追い切り、そして、レースに出走登録

馬房でトレーニングを続け、馬の調子もピークに近づいた。ここで追い切りをかけて、レースへ出走だ。レースに出走するには、馬房画面でコマンドメニューを開き、条件に合ったレースを選び、出走登録すればいい。

ただし、トレーニングや馬房の管理などは、調教助手や厩務員に任せているため、調教師であるプレイヤーが、馬の調子の良し悪しをみるのは、馬房画面でみられる馬の表情、調子の上昇度を示す矢印の向き、そして、厩務員の馬の状態コメントと、調教助手の追い切り後のコメントだ。それらをすべてふまえて、さらに出走条件をクリアしているレースを選択、出走登録をする。

だが、調子は最高、完璧な状態に仕上がっていても、出走登録後の厩務員のコメントを聞くと、「恵まれないと辛い」とか、「強いのも何頭か出てきそうなので」という感じで、あまり積極的な声が聞けないことがよくある。

これは実力的に、そのメンバーでは苦しいということ。もしコメントで、恵まれないと辛いと言われた場合は、出走を回避して、もう少し鍛えてから、時間を置いて再び挑戦するのがいいのかもしれない。

自分の管理馬が、どんなレースに出しても「勝ち負けですね」と言われるように、日々努力を積み重ねていかなければならない。

厩務員のレース登録時コメント

	コメント
勝てそうなとき	今週の（レース名）に登録済みです　この馬の能力なら勝ち負けですよ
入賞できるかできないか	今週の（レース名）に登録済みです　強いのも何頭か出てきそうなので微妙ですね
勝てそうにないとき	今週の（レース名）に登録済みです　恵まれないと辛そうな気もしますね
重賞登録	今週の（レース名）に登録済みです　重賞なのでがんばって欲しいですね
G1登録	今週の（レース名）に登録済みです　いよいよですね　緊張してきました
厩務員がいないとき（一般レース）	今週の（レース名）に登録済みです
厩務員がいないとき（G1レース）	今週の（レース名）に登録済みですいよいよですね　先生

厩務員のコメント一覧

厩務員がコメントする内容は、レースに関係するものだけではない。日々の世話をとおして管理馬の様子を観察し、状態に関しては最もよくわかっているスタッフなので、何かあればその都度的確なコメントを発してくれる。管理馬が故障して馬房で休養しているときには、その回復状況をコメントしたり、放牧から帰ってきたときの様子がどうであるか、レース後の管理馬の状態など、馬体に関する細かい状況は、厩務員のコメントをしっかり聞いていれば把握できるはずだ。

厩務員のコメント一覧（追いきり後コメント、馬の調子コメントを除く）

故障がある時	
ソエ	まだソエを気にしていますね
ハ行	まだ歩様が正常ではありません　もう少し様子を見ましょう
熱発など病気	まだ具合が悪いようですね

故障からの復帰時	
ソエ	ソエは治りました　もうだいじょうぶですよ
ソエ以外	（故障名）は治りました　トレーニングを再開してもだいじょうぶですよ

放牧からの帰厩時	
放牧効果あり	すっかり元気を取り戻して帰ってきましたね　放牧の効果が出ています
疲れがまだ残っている	うーん・・・リフレッシュの効果があまり出ていないですね

レース後	
疲れがない	レースの後ですが元気一杯ですよ
丈夫な馬に疲れがない	この馬はタフさがうりですからレース後も元気一杯です
疲れがたまっている	レースでの消耗が激しかったのかちょっと元気がありませんね
体質が弱い馬に疲れがたまっている	この馬は体質が弱いのでレースの後はぐったりしてますね
疲れがさほどない	レースの後も順調に来ています

アシスタントのコメント	
放牧中	現在（牧場名）に放牧中です
地方馬房滞在中	現在（地方馬房名）に滞在中です
引退式決定後	この馬ともいよいよお別れですね　寂しくなります

新馬入厩

毎年12月に入厩依頼のあった新馬は、翌年の4月以降、続々と入厩してくる。入厩の際は新馬の能力コメントを聞き逃さないように。

新馬の受け入れ準備は、早い段階から

毎年12月、様々な馬主より新馬の入厩依頼がやってくる。その時、考えなければならないのは、自厩舎にいくつ空き馬房があるのかだ。

自厩舎には全部で20頭までしか現役馬を管理できない。それゆえに、新馬の入厩依頼も慎重に検討して受諾するようにしなくてはいけない。だが、受けてしまったものは仕方ないので、新馬が入厩してくる4月以降までに馬房の整理をしておくことが必要だ。

3月になるとアシスタントのエリカ嬢が、今年の新馬入厩予定をふまえて、たくさん入厩してくるから馬房を調整しておいて下さいとアドバイスをしてくる。それに応えて、引退させる馬などをリストアップしておこう。

厩舎事務所で新馬の入厩スケジュールを把握

馬房の準備をするにあたり、三歳馬は何月から入厩してくるのかを知っておかなければならない。厩舎事務所でコマンドメニューを開いて、管理馬→入厩予定を確認すると、現役馬→三歳馬で、今年の三歳新馬の入厩予定を確認することができる。三歳新馬は、早い馬だと4月早々から、普通の馬だと6〜7月、晩成タイプだと11〜12月に入厩してくる。

入厩予定をみれば、だいたいその馬の成長パターンはつかめるはずだ。

入厩時の能力評価メモ

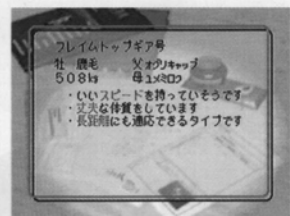
コメント	判定要素	ワンポイント
いいスピードを持っていそうです	スピード	これがなければオープン入りは無理か
末脚が切れそうなタイプです	ダッシュ	最重要コメント。重賞を勝つために必須
根性は非凡なものがあります	勝負根性	勝負根性はあればあったほうがいいが…
丈夫な体質をしています	回復力	体は丈夫なほうがいい
体質が少し弱そうです		体が弱いとレース後の回復力に?
やや晩成タイプかもしれません	成長曲線	晩成で強い馬なら、長い間活躍できる
やや早熟タイプかもしれません		活躍は4歳までと考えたほうがいい
長距離にも適応できるタイプです	距離適性	スピードがあれば幅広い距離で活躍
短距離に向いているタイプです		1800m以上のレースは苦戦。
ダートでは良く走ります	芝・ダート適性	芝で勝つのはかなり困難なことに…
気性が少し荒いですね	気性	馬房でカリカリしていなければ問題なし
気性がおとなしい馬です		おとなしい馬は少ない
とても元気な馬です	上記のいずれにも当てはまらなかった場合	2つ、3つ勝ってくれれば…

新馬入厩〜はたしてどんな馬なのか

いよいよ入厩予定月。アシスタントより、新馬が到着したことを告げられる。メッセージのあとに、育成牧場から新馬の能力を報告する評価メモが届けられる。

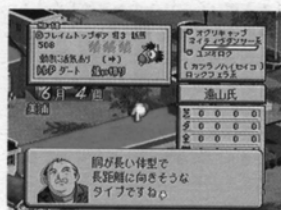
育成牧場からの評価メモに関しては左の表を参照。

競走馬として必要なのは、スピード、ダッシュ力、勝負根性、さらには体質もいいほうがいいだろう。まずはそのメモをみて、コメントがとても元気な馬です、だったら…これはこれであきらめて育成するしかないだろう。

評価が悪かったからといって、あっという間に引退させてしまうと、馬主との友好度が大きく下がってしまう。

馬房決定、競走馬としてトレーニング開始

入厩してきた新馬のために、まず馬房を決め、次に担当厩務員と調教助手を決定する。

ここで、評価メモの内容がスピード、ダッシュ力、距離適性など、様々なものを盛り込み、大物感漂うものだったら、できるだけ厩務員、調教助手も能力の高いスタッフを担当にしたいと思うところ。馬の能力を見極め、ふさわしいスタッフをつけてあげることが、さらにその馬の能力を向上させるカギになるのだ。スタッフが決まって、馬房に馬を見に行くと、担当厩務員が、さらに評価をしてくれる。

たとえば、ここに登場している3歳牡馬は、育成牧場のメモは、いいスピードを持ち、丈夫な体質、長距離にも適応できるという評価。厩務員は胴が長いタイプで長距離に向きそうなタイプとコメント。現時点で適性距離を示す棒グラフも2000mくらいに適性があるという評価なので、スタミナを伸ばしてステイヤーに育ててもいいし、スピード能力を身につけさせて2000m前後の中距離のスペシャリストにするという手もある。いずれにせよ目指す姿を決めて、トレーニングパターンを組み立て、育てていくようにしよう。

	評価コメント
良血馬のとき	良血馬ですね　大物感が漂っています　先が楽しみですね
優れた能力を持っているとき	かなりの能力を秘めていそうな馬ですよ　血統以上の期待が持てそうです
距離適性が短距離の場合	胴が詰まった体型で短距離に向きそうなタイプですね
距離適性が長距離の場合	胴が長い体型で長距離に向きそうなタイプですね
距離適性が中距離の場合	バランスの取れた体型でどんな距離にも対応できそうなタイプですね

入厩新馬とトレーニングパターン

入厩してきた新馬をデビューまでしっかり育てるために、まずはしっかりとトレーニングパターンを決めてあげることが大事だ。先ほど登場した3歳牡馬を例に上げて考えると、現状では、スピードと長距離適性、体の丈夫さがこの馬の能力。どこを伸ばせばいいのかよく検討して、トレーニングパターンを組んでみる。

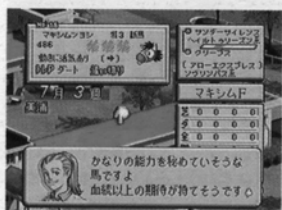
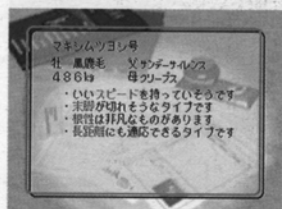
たとえば、現状で距離適性が中距離なので、あえてスプリンターを育てるような調教はいらない。スピードはありそうだけど、瞬発力はどうなのか、この評価が出ていない以上、それほど高いものは持っていないと考えたほうがいい。そこで、瞬発力を中心に、いま持っているスピード、長距離も適応するスタミナを鍛え上げることにする。

これらをふまえて考えてみると、トレーニングパターンはウッド・坂路、もしくはダート・坂路を中心に調教をスタートすれば良いということだ。もし完全なステイヤーを目指す場合でも、ダート・ウッドかダート・坂路で鍛えればいいだろう。

もう1頭、右の評価メモと厩務員のコメントから考えてみると、スピード、末脚、勝負根性、長距離にも適応できるという評価メモに対して、かなりの能力を秘めていそう、血統以上の期待がもてそう、と最大級のコメントなのだ。現時点ではやはり2000m前後に適性がありそうなので、そのあたりでさらに力を伸ばせばいい。同じようにダート・坂路かウッド・坂路で鍛えると、この馬はとてつもない大物に育つかもしれない。

ちなみに、厩務員のコメントで、「かなりの能力を～」という言葉が含まれていれば、オープンクラスでも十分勝てるだけの高い能力を持った馬だということを示しているのだ。このような馬は鍛えればさらに伸びていくタイプなので、最強馬にチャレンジしてみるのもいいだろう。

Grade One Stable

故障・病気

競走馬にケガはつきもの。重傷、軽傷問わず、細い足で500kgもの体を支えているだけに、調教師としては必要以上に気を遣ってしまう。

故障・病気の種類とその症状

競走馬はレース中のケガはもちろん、熱発したり、腹痛を起こしたりと、もともとデリケートな生き物なので、小さな病気でも大事になる恐れもある。厩舎事務所にいると、時々飛び込んでくる異常事態発生の連絡。その連絡を受けるたびに調教師はドキドキすることになる。

調教やレース以外で発症する病気

発熱

カゼなどの理由で熱を出してしまうこと。しっかり休めばすぐに復帰できる。

じんましん

馬房を清潔にしていなかったとか、飼い葉に異物が入り込んでそれを食べてしまったことなどが原因で、じんましんを発生する。

腹痛

人間と同様腹痛を起こすことがある。だが馬の胃などはかなり神経質なものなので、腹痛から、さらに大きな病気に発展してしまう可能性がある。

フレグモーネ

傷口からバイキンが入ることで起こる皮膚の炎症。痛みと発熱を伴うが、しっかり治療を施せば数週間で完治する。

トレーニング、追い切り、レース後に発生する故障

ソエ

成長途上の馬によく見られる骨瘤のこと。脚の管骨などにできているコブのようなものがそれだ。特に3歳や4歳など若駒によく見られ、体ができあがっていない段階でのハードトレーニングなどが原因にもなっている。治れば通常通り復帰できるので、放牧に出すなどして、完全に治療を済ませてしまうほうがいい。

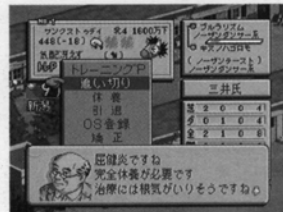
ハ行

歩様に異常がみられる状態のこと。疲労や筋肉痛、筋肉に炎症を起こしている時など、ハ行になりやすい状態だといわれている。完全に直るまでは、レースも調教もできない。

屈腱炎

競走馬にとって不治の病ともいわれる病気。脚の屈腱という部分が炎症を起こし、ひどく腫れ上がる。1度発症してしまうと完治するのは難しく、このために現役引退を余儀なくされた馬は、数えきれない。仮[illegible]ったとしても、再発する可能性[illegible]きい。

骨折

骨折にもいろいろあり、完全に折れてしまい1年以上も休養を余儀なくされてしまうものから、半年もかからずに復帰できるものまで様々。だが、レース中に発生する骨折は、最悪の場合、粉砕骨折になってしまったりすると、手の施しようがなく予後不良（安楽死）ということになってしまう。

病気に関しては、自厩舎でおとなしくしていれば、いずれ治るものだが、トレーニングやレース中に発症したケガに関しては、自厩舎で治療するよりも、牧場に放牧に出したり、治療牧場に入れたりする方がよい。治療牧場に関して、詳しくは26ページを参照。

矯正、その他

競走馬の中には、気性が荒かったり臆病だったりで、自分の真の力を発揮できないものもいる。そういう馬に対しては何らかの矯正具が施される。

気性が荒い馬の中には、パドックでも馬場入りしても、イレ込みっぱなしでまったく集中することができない馬がいる。当然のように、レース前に体力を使ってしまい、いくら力のある馬でも惨敗を喫するということも、よくあることだ。

そこで、少しでも気性難を抑えようと、様々な矯正が試されてきた。「実況G1ステイブル」の中では4種類の気性の矯正が可能である。

<メンコ>

馬の顔を覆うマスク。耳を完全に覆うので物音に敏感な馬に有効とされている。

実際の競馬では、特に物音が気になるパドックや、本馬場入場など、スタート地点まではメンコをして、ゲートに入るときに取るような馬も多い。レースの発走までは、メンコの効果で集中させようということなのだろう。ゲームの中では気性の悪い馬を少し落ち着かせる役目がある。

<ブリンカー>

馬の視界は約300度といわれ、後方にいる馬まではっきりと見えてしまう。そこで集中力のない馬は、周りを気にしてキョロキョロしてしまうのである。レースに集中するどころではない。

そこで、遮眼帯ともいわれる、馬の横方向の視界を遮ってレースに集中させる矯正具、ブリンカーが活用されるようになった。ゲームの中では気性の悪い馬をかなり落ち着かせる役目がある。

<シャドーロール>

周辺だけではなく下も気にする馬たち。その中には影におびえる馬も少なからずいる。そこで、視界の下を遮って、レースに集中させるために、このシャドーロールが開発された。羊の毛などでできていて、円筒形の道具。馬の顔に装着して、臆病な馬を矯正する効果がある。

<去勢>

気性の荒い牡馬は落ちつかせるために、去勢をすることがある。しかし、去勢すると勝負根性が落ちたり、クラシックや天皇賞などの「牡、牝」表示のレースに出られなくなる。去勢すると、生産牧場に3ヶ月間放牧され、気性は4分の1に落ち着くが、逆に勝負根性が4分の3になってしまう。

馬房内でまめに様子をチェックしているとわかるが、たいていの馬は成長とともに気性難も解消されていく。このような馬にいつまでも矯正具をつけっぱなしにしておくのは逆効果。今度は逆にレースに集中できなくなってしまう。気性難のコメントが出なくなったら、矯正具はとってあげよう。

ゲーム中では複数の矯正具を同時に使うことはできない。

装蹄師登場イベント

装蹄師とは、馬の蹄鉄を作る職人のこと。ゲーム中には、ある一定の条件をクリアしていると、謎の装蹄師が出現。彼が登場すると、馬に合った蹄鉄を作ってくれるのだ。蹄鉄がついた馬は、脚が丈夫になり、ケガをしにくくなるのである。

装蹄師の登場条件

- ●担当厩務員、調教助手がいる
- ●当然、蹄鉄が付いていない
- ●調教師評判度が7以上
- ●脚が弱い（入厩時にバンテージを巻いていたら、脚が弱い可能性あり）
- ●ヒビ、骨折、剥離骨折、屈腱炎で放牧に出して戻ってきた週（追いきり前）
- ●重賞を勝っている

以上の6つの条件を満たしている馬に、トレーニングパターンで「ダート・ウッド」、「ダート・坂路」、「ウッド・坂路」 のどれかを選択すると装蹄師が登場する。装蹄師に出会って蹄鉄を作ってもらい、脚が弱かった馬を、最強の競走馬に変えてもらおう。

競走馬引退

競走馬は成長力が普通の馬は6〜7歳、晩成の馬でも8歳になれば引退するケースがほとんど。すべての馬を無事に引退させてあげたいものだ。

引退の3パターン

常に体を酷使し、ボロボロになりながらも一生懸命ターフを駆け抜ける…そんな競走馬たちに、必ず訪れる引退の日。競走馬の成長期間は、早熟（3〜4歳）、普通（5〜6歳）、晩成（7歳〜）とだいたい3つの種類に分れている。競走馬として能力の限界が訪れれば、それ以上無理使いをするのは馬のためにはならない。

調教師として、管理馬の引退を決断するのは辛いことだ。それでも馬のことを思えば、耐えるしかないのだ。

「実況G1ステイブル」での引退のパターンは次の3パターン。

1.通常引退（調教師の判断で、限界を感じた競走馬を引退させる）

2.10歳馬の強制引退（10歳の12月3週になると強制的に引退させられる）

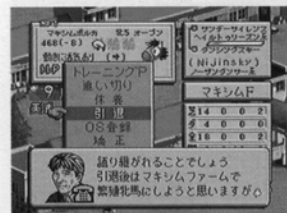
3.新馬入厩の際の引退馬選択（有望な新馬が入厩してきたにも関わらず馬房が一杯のとき、新馬を入厩させたければ、強制的に現役馬1頭を引退させなければならない）

通常引退

馬房画面でコマンドメニューを開き、引退を選択。調教師が決断して馬主にお伺いを立て、許可がでれば引退させることができる。ただし、馬主は、その成績によっては引退を渋ることがある。たとえば、

- **5歳未満で10戦していない場合**
- **5歳未満で成績が1600万下クラス以上の馬の場合**

馬主が渋った場合でも無理やり引退させてしまうと、その馬主との友好度は下がってしまうが、何度も引退の電話をすると承諾してくれる。

引退した馬の進路は様々だが、友好関係の深い遠山氏の馬が引退する場合は、成績に関係なく繁殖牝馬、種牡馬にすることができる。他の馬主に関しては種牡馬にはできないが、現役時代にオープン馬だった馬は各牧場1頭だけ繁殖牝馬になれる。

10歳馬の強制引退

自厩舎の管理馬は10歳の12月3週になると、厩務員、調教助手、エリカ嬢のいずれかが現われて、強制的に引退させるイベントが発生する。強制引退した馬でも、繁殖牝馬や種牡馬になることはできる。

新馬入厩時の引退馬選択

厩舎では最大20頭までしか管理できないため、様々な馬主とお付き合いするようになってきたのに、入厩馬の選定を怠っている場合、新馬入厩時にこのような事態に陥ってしまう。もし仮に、入厩してくる新馬の能力が低いのであれば、その時点で入厩をお断りすればいいのだが、能力の高い馬だったりすると、やむを得ずに現役馬を引退させることになる。この場合も成績によっては馬主は渋るので、できるだけピークを過ぎている馬を見極めて、引退させるようにしよう。それよりも、入厩馬の管理はしっかりやっておこう。

引退式〜殿堂入り

現役時代にG1を3勝以上した馬は、KRAで殿堂入りすることになる。さらに、これまでの功績を讃えて、盛大な引退式も行われる。

ただし、引退後に殿堂入りが決定している馬であっても、ケガをしていたりすると、それを気づかって、引退式は行われない。また、馬房が足りなくて強制引退させた馬が殿堂入りする場合も、引退式はない。

マキシムボルカ号
牝 5歳
父 サンデーサイレンス
母 ダンシングスキー

競走成績 20戦18勝 GI 3勝
獲得賞金 6億6710万円

芦毛馬の誘導馬転身

遠山氏所有の馬ではなく、G1を勝っていない馬で、未勝利ではない芦毛馬、さらに気性が荒くもなく臆病でもないという馬は、KRAに誘導馬として引き取られることになる。いずれG1などの誘導馬として再び姿を見せる日が来ることだろう。